

のり海況速報 第9報 (23-9)

平成24年 1月27日発行
 千葉県水産総合研究センター
 東京湾漁業研究所
 千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 1/23：内湾(わかふさ)、1/24：内房北部(ふさみ丸)
 関東・東海海況速報、東京湾口海況図・ふさなみ航走水温データ(1/4-26)
 拓南観測データ(11/1-1/23)
 モニタリングポスト(1/23：国交省関東地方整備局)

【水温・塩分の状況】

内湾の表層水温(図1)は前報(1月10日)よりさらに1~2℃下がり、ほぼ8~10℃台になっています。内房北部の表層水温も降下し、10~12℃台になっています。しかし、東京湾口への沖合水の流入は依然継続しており、浦賀水道航路入口付近の15m以深に塩分34以上の水塊がみられ(図2)、昨日(26日)から金谷・久里浜間の水温がさらに3℃上昇し、水温18℃台の水塊が流入していますので、この動きには十分な注意が必要です。

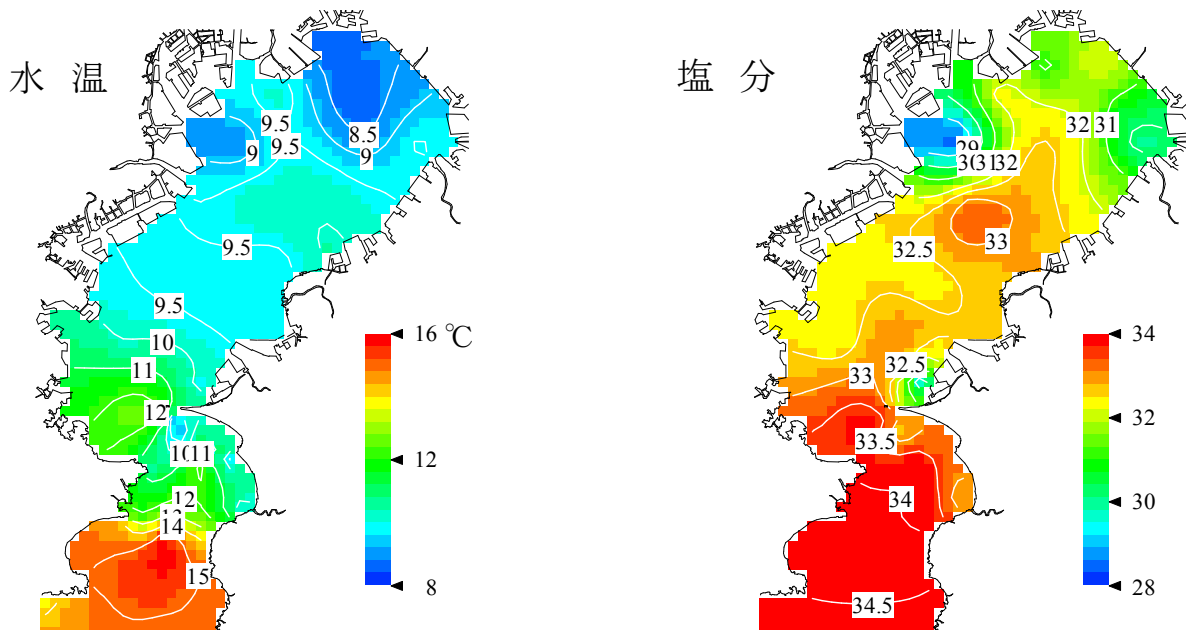


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾～内房北部：平成24年1月23-24日)

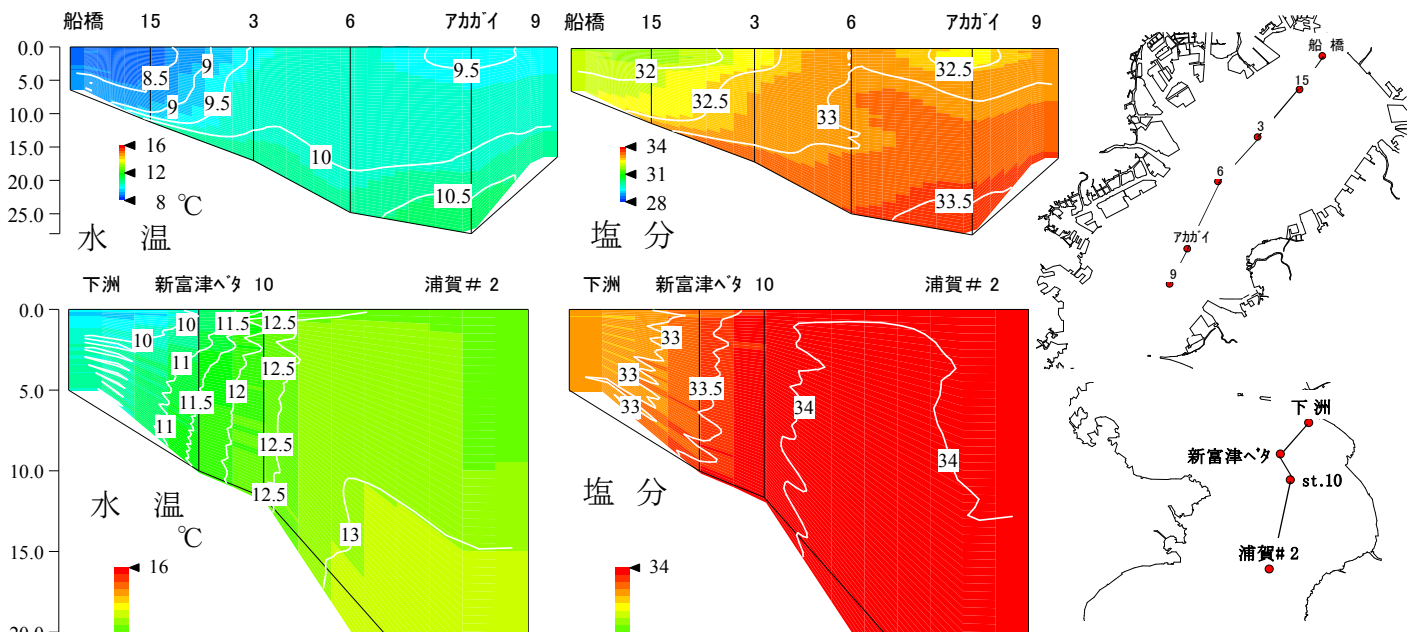


図2 断面の水温・塩分の鉛直分布(平成24年 1月23-24日)

【赤潮・栄養塩の状況】

アクアライン以北で発生していた濃い赤潮は20～21日の強い季節風と降雨によってやや衰退しました。しかし、プランクトンは依然多く、湾奥ではpHが8.5と高くなっています。水色もやや褐色を帯びているところがあります。優占種は小型ケイ藻のスケルトネマで、ノリの色落ち被害をもたらすリゾソレニアも目立ち始めています。

表層の栄養塩(図3)は、窒素(DIN)は十分ありますが、リン(DIP)が全域でかなり少なくなっています。各のり漁場(図4)でもノリの色落ちが心配される濃度になっていますので、今後この動向には注意が必要です。

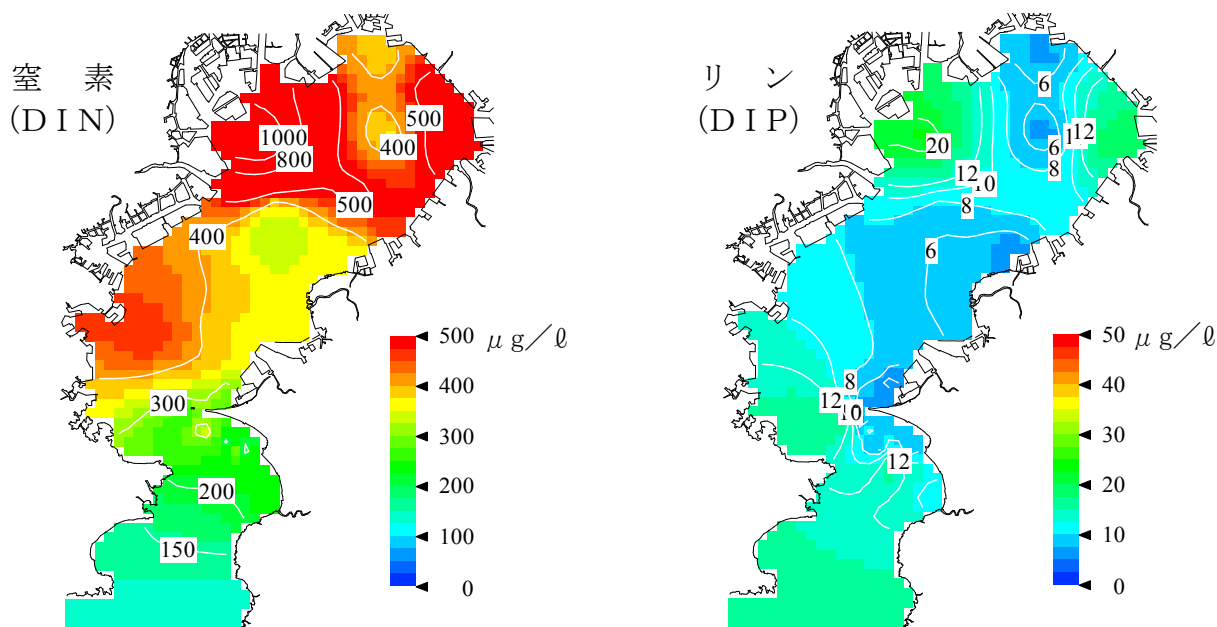


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾～内房北部：平成24年1月23-24日)

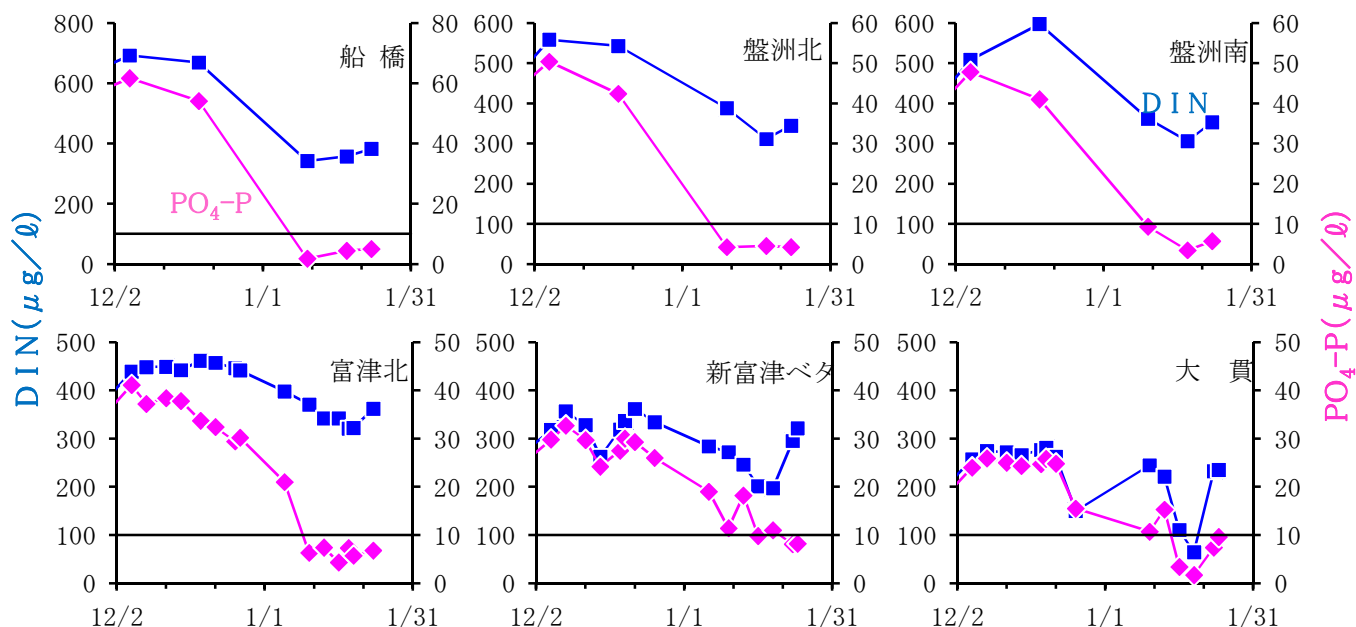


図4 各地先における栄養塩濃度の経過 (表層：平成23年12月1日～24年1月24日)
(図中の横線はノリの色落ちをひき起こすとされる目安の濃度)

川養殖場水温予報のお知らせ

今年も、各川養殖場(三番瀬, 盤洲北部, 盤洲南部, 富津岬北, 富津岬南)について、5日先まで表層水温を予報しています。パソコンまたは携帯の検索サイトで”川養殖場水温予報”で検索するか、下記アドレスを直接入力してご覧ください。

パソコン：http://wwwp.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/main_frame.html

携帯：http://wwwp.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/mobile_forecast.html